

第 2 章

施設規格表

調査内容

オリンピックで求められる基準などを基に、各施設の規模等要件を整理した。

■ 競技概要

競技	スキー・アルペン
種目	男女：回転・大回転・スーパーG・滑降・複合
概要	滑降(Downhill)、スーパーG(Super-G)、回転(Slalom)、大回転(Giant Slalom)、複合(Super Combined)の5種目が行われる。スピード系の滑降、スーパーGの2種目は1本のタイムで競い、回転、大回転の技術系の2種目は2本の合計タイムで競う。バンクーバーオリンピックから採用された複合は、スピード系(滑降かスーパーG)1本、回転1本の合計タイムで競うが、オリンピックでは「滑降と回転」の組み合わせになる。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 8,000名 立見席： 10,000名
会場の数	1
敷地面積(m ²)	3,450,000m ²
建築面積(m ²)	約23,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	<p>【滑降】 ①標高差：(男子)800m～1,100m (女子)500m～800m</p> <p>【スーパーG】 ①標高差：(男子)400m～650m (女子)400m～600m ②最大旗門数：標高差の10% (それぞれに方向転換を有する)</p> <p>【大回転】 ①標高差：(男子)250m～450m (女子)250m～400m ②旗門数：標高差の11～15%</p> <p>【回転】 ①標高差：(男子)180m～220m (女子)140m～220m ②旗門数：標高差の30～35%(方向転換数)</p> <p>【複合】 滑降・回転種目と同じコース</p> <p>【出典：FIS 国際スキー競技規則(ICR)・2013年度】</p>

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約290m ²
競技マネージメント	約65m ²
競技情報	約25m ²
アスリートラウンジ	約180m ²
IFおよび競技関係者の ミーティングルーム	約45m ²
競技用具保管所	約90m ²
スキーの夜間保管所	約180m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

アスリートスタンバイテント	約30m ²
アスリートテントまたは スタート小屋	約30m ²
アスリート用暖房テント	約40m ²
トイレ アスリートエリア	約5m ²
トイレ FOPに近い場所	約5m ²

■ アルペンスキーセンター「ロザ・フトル」
“Rosa Khutor” Alpine Ski Centre
Alpine Skiing
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 7,500席
- ・ロザ・フトル、アイブガ山脈に位置する。ここで、全アルペンスキー種目が開催される。オリンピック用アルペンスキーコースの総延長は9km。
- ・オリンピック期間中は、アイブガ山脈の最高地点で競技が行われる。
- ・コース設計者は、伝説のオリンピック滑降チャンピオン、ベルナルド・ルッシ。
- ・コースの総面積は43ha。
- ・コースは標高940～1,945mに位置し、単一のフィニッシュゾーンを有する。
- ・コース設置のため、アルペンスキーセンターはクレーン及び人工雪製造機を備えている。

■ 競技概要

競技	スキー・クロスカントリー
種目	男子：15km・50km・4×10kmリレー・スプリント・チームスプリント・パシュート 女子：10km・30km・4×5kmリレー・スプリント・チームスプリント・パシュート
概要	大きくディスタンス種目とスプリント種目、リレー種目の3つに分けられる。また、走法にはクラシカル(スキーをフォールラインに真っすぐ向けて走る)とフリー(スケーティング走法)の2種類がある。実施される種目が多く男女各6種目が行われるが、ほとんどの種目にトライする選手、得意な種目に絞って戦う選手など、チームや選手によって最も駆け引きが行われる競技でもある。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 3,000名 立見席： 10,000名
会場の数	1 ※ノルディック複合と共有可能
敷地面積(m ²)	850,000m ²
建築面積(m ²)	約23,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定特記事項	①コースの1/3は標高差10m以上、傾斜9%～18%等の登り部分 ②コースの1/3は短い登り下りを含む小さな起伏 ③コースの1/3は変化に富んだ下り部分 【出典：FIS国際スキー競技規則クロスカントリー・2012年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約270m ²
競技マネージメント	約65m ²
競技情報	約20m ²
アスリートラウンジ	約180m ²
チーフオブコース用オフィス	約20m ²
スキーマーキングエリア	約25m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

トイレ アスリートエリア	約5m ²
トイレ FOPに近い場所	約5m ²

■ クロスカントリースキー及びバイアスロン用複合施設「ラウラ」
“Laula” Cross-country Ski & Biathlon Centre
Biathlon | Cross Country Skiing
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 7,500席(クロスカントリースキーセンター)、7,500席(バイアスロンセンター)
- ・当施設は、クラスナヤ・ボリャナ村北東6.5～10kmのプセハコ山脈の尾根及び斜面にある。
- ・施設は、2つの独立したスタジアムからなり、各スタジアムにはスタート・フィニッシュゾーン、総延長15km以上の2つの独立したクロスカントリースキーとバイアスロン用コース、射撃場及びウォーミングアップゾーンがある。
- ・スキーコースのスケーティングサークルは、スタジアムから80m下方にあり、コース最終部分1,700mのうち1,200mは上り坂で高低差は85m。

■ 競技概要

競技	スキー・ジャンプ
種目	男子：ノーマルヒル個人・ラージヒル個人・ラージヒル団体 女子：ノーマルヒル個人
概要	スキージャンプは飛距離とジャンプ中の飛行姿勢、着地の美しさを競う競技。ジャンプ台の大きさや助走の距離、さらにK点(飛距離の基準点)までの距離などによって、ノーマルヒルとラージヒルの種目に分かれる。実際の選手が飛ぶ距離はノーマルヒルでは概ね100m前後、ラージヒルでは100～180m程度となる。また個人戦と団体戦にも分かれ、団体戦は4名の選手が1組で行う。個人戦、団体戦ともに基本的に選手は2回のジャンプを行い、その合計ポイントによって勝敗が決まる。ジャンプ台を踏み切る力とバランスを取る技術が求められる。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 3,000名 立見席： 10,000～15,000名
会場の数	1 ※ノルディック複合と共有可能
敷地面積(m ²)	60,000m ²
建築面積(m ²)	約23,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	【ノーマルヒル】 ①ヒルサイズ：100m以上 【ラージヒル】 ①ヒルサイズ：110m以上 【出典：FIS国際競技規則・2012年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工事部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約250m ²
競技マネージメント	約65m ²
競技情報	約20m ²
アスリートラウンジ	約180m ²
スキーテクニシャンエリア	約25m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約150m ²
競技用具保管所	約70m ²
FOP備品保管エリア	約40m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

トイレ - アスリートエリア	約5m ²
トイレ - FOPに近い場所	約5m ²

■ ジャンプ複合施設「ルスキエ・ゴルキ(ロシアの山々)」
“RusSki Gorki” Ski Jumping Centre
Nordic Combined | Ski Jumping
(参考：SOCHI2014)

施設概要：
・座席数 7,500席
・当施設はアイブガ山脈の北斜面、エスト・サドク鉄道駅そばにある。
・ノーマルヒル(K点95m)とラージヒル(同125m)の最新のオリンピック用ジャンプ台からなる。
・場所は、ジャンプ台が周囲の風景に溶け込み、ジャンパーが横からの突風を受けないよう、国際専門家により特別に選ばれた二つの山脈が出合う地点である。

■ 競技概要

競技	スキー・ノルディック複合
種目	男子：ノーマルヒル個人・ラージヒル個人・ラージヒル団体
概要	「ノルディックスキー コンバインド」、もしくは「コンバインド」とも呼ばれる競技で、スキージャンプとクロスカントリースキーの2つのノルディックスキー競技によって行われる。多くの大会で採用されている競技方法は、前半にジャンプ競技を行い選手の飛んだ距離をポイント化して、そのポイントの差を時間に換算。そして、後半のクロスカントリーではジャンプの成績の上位選手から時間差でスタートして、ゴールをした順で順位が決定するグンダーセン方式で実施。さらに、ジャンプ競技におけるジャンプ台の大きさによってノーマルヒル、ラージヒルといった種目に分かれ、個人戦と団体戦を行う。団体戦は4人1組のチームとなり、ジャンプは4人の合計得点、クロスカントリーはリレー方式によって競われる。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	スキージャンプ・クロスカントリーに基づく
会場の数	2 ※クロスカントリー・ジャンプと共有可能
敷地面積(m ²)	850,000m ²
建築面積(m ²)	約23,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	スキージャンプ、クロスカントリーに基づく 【出典：FIS国際スキー競技規則ノルディック複合・2013年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工事部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約520m ²
競技マネージメント	約130m ²
競技情報	約40m ²
アスリートラウンジ	約360m ²
チーフオブコース用オフィス	約40m ²
スキーマーキングエリア	約50m ²
テクニシャンエリア	約50m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約300m ²

トイレ アスリートエリア	約10m ²
トイレ FOPに近い場所	約10m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

■ ジャンプ複合施設「ルスキエ・ゴルキ(ロシアの山々)」
“RusSki Gorki” Ski Jumping Centre
Nordic Combined | Ski Jumping
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 7,500席
- ・当施設はアイブガ山脈の北斜面、エスト・サドク鉄道駅そばにある。
- ・ノーマルヒル(K点95m)とラージヒル(同125m)の最新のオリンピック用ジャンプ台からなる。
- ・場所は、ジャンプ台が周囲の風景に溶け込み、ジャンパーが横からの突風を受けないよう、国際専門家により特別に選ばれた二つの山脈が出合う地点である。

■ 競技概要

競技	スキー・フリースタイル
種目	男女：モーグル・エアリアル・ハーフパイプ・スキークロス・スロープスタイル
概要	モーグル、エアリアル、スキークロス、ソチ大会からハーフパイプ、スロープスタイルが加わり5種目からなる。モーグルはこぶのある斜面を滑り降りる途中でエアを行い、スピードやターン技術を競う。エアリアルは空中に飛び出して演技を行い採点する。スキークロスは複数人がキッカーやウエーブのあるコースを滑走して速さを競う。ハーフパイプはU字形のコースでアクロバティックな空中技を競う。スロープスタイルは、800～1000m前後の斜面に複数のジャンプ台やジブ(金属のレールで手すりのようなもの)とされているアイテムなど、さまざまな設備が置かれたコースを滑る競技。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 4,000名 立見席： 10,000名
会場の数	1
敷地面積(㎡)	440,000㎡
建築面積(㎡)	約23,000㎡
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	<p>【モーグル】</p> <p>①コース幅：最小18m ②コース全長：235m±35m ③コース角度：28°±4°</p> <p>【エアリアル】</p> <p>①アプローチ(助走)：角度約25° 距離64m以上 ②テーブル：幅約24m 奥行20m以上 ③ランディングバーン：角度約37° 距離25m以上</p> <p>【ハーフパイプ】</p> <p>①全長：120m～160m ②平均斜度：12～16° ③コース幅：15～20m ④壁の高さ：3.0～5.7m</p> <p>【スキークロス】</p> <p>①傾斜：12～22°(平均15°) ②コース幅：最小30m ③トラック幅：5m以上推奨 ④スタートから最初のターンまで：60m以内 ⑤最初のターンの弧：100°以上</p> <p>【スロープスタイル】</p> <p>①標高差：100m以上200m以内 ②コース全長：約1,000m ③コース幅：30m以上 ④勾配平均12°</p> <p>【出典：FIS国際フリースタイルスキー競技規則(ICR)・2013年度】</p>

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160㎡
放送	約5,700㎡
ケータリング	約1,000㎡
セレモニー	約130㎡
清掃と廃棄物	約420㎡
ドーピング管理	約6㎡
イベントサービス	約200㎡
金融関連	約70㎡
言語サービス	約30㎡
物流	約1,400㎡
医療サービス	約300㎡
商品販売	約50㎡
オリンピックファミリーサービス	約560㎡
プレスオペレーション	約1,400㎡
セキュリティ	約1,200㎡
競技プレゼンテーション	約80㎡
テクノロジーオペレーション	約120㎡
情報技術	約60㎡
通信、視覚	約70㎡
時間計測、スコアリング、結果オペレーション	約100㎡
テクノロジー関連一般保管	約110㎡
テクノロジー系一般インフラ	約25㎡
チケット取扱い	約100㎡
交通	約920㎡
現場管理・工部門の業務エリア	約1,580㎡

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約250㎡
競技マネージメント	約65㎡
競技情報	約20㎡
アスリートラウンジ	約180㎡
IF&スポーツミーティングルーム	約150㎡
競技用具保管所	約90㎡
FOP備品保管エリア	約40㎡

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

アスリートスタンバイテント	約30㎡
スタートエリアウエザーボード	約30㎡
トイレ — アスリートエリア	約5㎡
トイレ — FOPに近い場所	約5㎡

■ エクストリーム・パーク「ロザ・フトル」 “Rosa Khutor” Extreme Park Freestyle Skiing | Snowboard (参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 4,000席(フリースタイルセンター)、6,250席(スノーボードパーク)
- ・ロザ・フトル高原の東でスノーボード及びフリースタイル競技が行われる。
- ・ユニークな雪条件とスキークロス、スロープスタイル、モーグル、スノーボードクロス、パラレル大回転、ハーフパイプ用の特別コースがあり、常時世界最高レベルで競技が実施できる。
- ・標高1,015～1,200mに位置する。
- ・アルペン及びフリースタイル用に、アイブが斜面に6本のコースが総延長約3.5kmで建設された。
- ・スタート地点は標高1,230～1,070mにあり、最大高低差は215m。
- ・コースは様々な難度のジャンプ、ターン、回転、エア及び「スクルー」ができるような地形になっている。

■ 競技概要

競技	スキー・スノーボード
種目	男女：パラレル大回転・ハーフパイプ・スノーボードクロス・スロープスタイル・パラレル回転
概要	1枚の板上にサーフィンのような横乗りスタイルで雪上を滑走する競技。1998年長野大会で男女ハーフパイプと大回転が正式競技となった。2002年ソルトレークシティ大会では大回転から2人同時に滑るパラレル大回転に変更され、2006年トリノ大会で複数人が同時に滑るスノーボードクロスが追加。今大会から、ジャンプ台や障害物が設置されたコースを滑走しながら技を繰り出し、難度などを争うスロープスタイルが新種目となった。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 4,000名 立見席： 10,000名
会場の数	1
敷地面積(m ²)	440,000m ²
建築面積(m ²)	約23,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	<p>【パラレル大回転】</p> <p>①標高差：120m～200m ②幅：40m以上 ③全長：400m～700m ④旗門数：18旗門以上(FIS推奨旗門数：25) ⑤旗門間隔：20m～27m</p> <p>【ハーフパイプ】</p> <p>①全長：120～150m(FIS推奨130m) ②幅：15～19m(FIS推奨16.5m) ③傾斜角：15～18°(FIS推奨16.5°) ④壁の高さ：5.0m～5.8m</p> <p>【スノーボードクロス】</p> <p>①標高差：130m～250m ②全長：650m～1,200m(40秒～90秒) ③幅：40m以上 ④斜度：平均12°</p> <p>【スロープスタイル】</p> <p>①標高差：100m～200m ②幅：30m以上 ③傾斜角：約12°</p> <p>【パラレル回転】</p> <p>①標高差：80m～200m ②幅：30m以上 ③全長：250m～450m ④旗門数：18旗門以上(FIS推奨旗門数：25) ⑤旗門間隔：10～14m(ターニングポール間)</p> <p>【出典：FIS国際スノーボード競技規則(ICR) 2013年度】</p>

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,400m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約250m ²
競技マネージメント	約65m ²
競技情報	約20m ²
アスリートラウンジ	約180m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約150m ²
競技用具保管所	約90m ²
FOP備品保管エリア	約40m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

アスリートテントまたはスタート小屋	約30m ²
トイレ - アスリートエリア	約5m ²
トイレ - FOPに近い場所	約5m ²

■ エクストリーム・パーク「ロザ・フトル」
“Rosa Khutor” Extreme Park
Freestyle Skiing | Snowboard
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 4,000席(フリースタイルセンター)、6,250席(スノーボードパーク)
- ・ロザ・フトル高原の東でスノーボード及びフリースタイル競技が行われる。
- ・ユニークな雪条件とスキークロス、スロープスタイル、モーグル、スノーボードクロス、パラレル大回転、ハーフパイプ用の特別コースがあり、常時世界最高レベルで競技が実施できる。
- ・標高1,015～1,200mに位置する。
- ・アルペン及びフリースタイル用に、アイブガ斜面に6本のコースが総延長約3.5kmで建設された。
- ・スタート地点は標高1,230～1,070mにあり、最大高低差は215m。
- ・コースは様々な難度のジャンプ、ターン、回転、エア及び「スクイュー」ができるような地形になっている。

■ 競技概要

競技	スケート・スピードスケート
種目	男子：500m・1,000m・1,500m・5,000m・10,000m・チームバシュート 女子：500m・1,000m・1,500m・3,000m・5,000m・チームバシュート
概要	競技は1周400mのダブルトラック(内側半径26m、レーン幅4m)で実施。スタート後、交差区域(バックストレート)に達する度に内側と外側のレーンを交換して滑走。通常、内側からスタートするスケーターは白色の腕章、外側は赤色の腕章を着用して滑走を行う。交差区域では、外側から出てくる者が常に優先となり、いかなる場合も内側から出るスケーターはその進路を妨げてはならない。スケーター同士の接触や外側から出てくるスケーターの進路を妨害したと判断された場合は失格となる。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 6,000名 立見席： -
会場の数	1
敷地面積(m ²)	60,000m ²
建築面積(m ²)	54,000m ²
建物構造	RC造・鉄骨造
コース規定 特記事項	競技レーン：2つ、最大400m、最小333 1/3m 内側の競技レーン幅：4mを推奨 外側の競技レーン幅：少なくとも4m必要 内側のカーブ：半径25m、25.5m、26m 【出典：ISU SPECIAL REGULATIONS & TECHNICAL RULES SPEED SKATING and SHORT TRACK SPEED SKATING・2012年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約3,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約205m ²
競技マネージメント	約90m ²
競技情報	約20m ²
アスリートラウンジ	約70m ²
アスリート用ロッカールーム	約400m ²
ランドリールーム	約75m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約150m ²
スケート研ぐための部屋	約100m ²
FOP備品保管エリア	約225m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

氷/雪テクニシャンエリア	約20m ²
トイレ - アスリートエリア	約5m ²
トイレ - FOPに近い場所	約5m ²

■ アドレル・アリーナ “Adler Arena” Skating Centre Speed Skating (参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 8,000席
- ・敷地面積：6.6 ha
- ・建物の高さ：24.7m
- ・建物の長さ：274mで、サッカー場3面分に等しい。
- ・3つのトラックの総面積は、アイスホッケー用リンク3つ分に等しい。
- ・スピードスケート競技用施設。トラックは最高の計時ができるよう設計されている。
- ・建物は楕円形で、灰色がかかった水色のスタンドグラスが使われている。
- ・建設には、先進技術により、建物に強度と安全性を与える鉄筋コンクリートの構造材が使われている。

■ 競技概要

競技	スケート・フィギュアスケート
種目	男女：シングル・ペア・アイスダンス・団体
概要	男子、女子、ペア、アイスダンス・団体の5種目。男女とペアは定められた要素を組み合わせて滑るショートプログラムとフリーを実施。アイスダンスは課題曲で滑る規定、指定されたリズムの音楽を使って創作するオリジナルダンス、フリーを滑る。ペアは男性が女性を投げるスロージャンプやツイスト、高々と持ち上げるリフトなどアクロバティックな要素が多い。アイスダンスには個人種目やペアのようなジャンプはなく、リフトの高さやスピンの回転にも制限があるが、音楽に乗った華麗な動作や巧みなステップワークが見どころ。5種目で唯一、ボーカル入りの曲を使用できる。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 12,000名 立見席： -
会場の数	1 ※ショートトラックと共有可能
敷地面積(m ²)	40,000m ²
建築面積(m ²)	26,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	リンク正味面積：1800m ² 【出典：ISU SPECIAL REGULATIONS & TECHNICAL RULES SPEED SKATING and SHORT TRACK SPEED SKATING・2012年度、p72及びTechnical Manual on COMPETITION VENUES・2005年度、FIGURE SKATING / SHORT TRACK マトリックス部分】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約370m ²
競技マネージメント	約65m ²
競技情報	約25m ²
アスリートラウンジ	約180m ²
アスリート用ロッカールーム	約400m ²
チームベンチエリア	約10m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約150m ²
競技用具ストレージ	約70m ²
スケート研ぐための部屋	約20m ²
コスチューム/スケートの修理	約15m ²
ヘアドレッサー&メイク	約30m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

■ 冬季スポーツ宮殿「アイスバーグ」
“Iceberg” Skating Palace
Figure Skating | Short Track Speed Skating
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 12,000席
- ・敷地面積：11.42ha
- ・建物の高さ：34m
- ・冬季スポーツ宮殿「アイスバーグ」は、フィギュアスケート及びショート・トラック競技用施設である。
- ・コンクリートの初回注入の際、建物の基礎部分に記念カプセルが埋められた。
- ・「アイスバーグ」の基礎には、2,280本の杭が打ち込まれている。
- ・基礎プレート(20,500m²)の敷設は、1カ月未満で完了した。
- ・基礎は、18,000立米以上のコンクリートと、1,943トンの鉄骨を必要とした。
- ・施設の建設には、15,000トンの金属構造材が使われている。これはエッフェル塔2つ分だ。
- ・巨大な屋根が皿状のスタジアムの30m以上上空にそびえている。屋根の周囲は波のような形をしており、大洋に浮かぶ冰山を思わせるファサードと調和している。
- ・施設の名称はインターナショナルで、ロシア語・英語・ドイツ語で共通だ。

FOPスタッフスタンバイエリア	約12m ²
FOP備品保管エリア	約40m ²
アスリートスタンバイエリア	約10m ²
キス&クライエリア	約15m ²
トイレ — アスリートエリア	約5m ²
トイレ — FOPに近い場所	約5m ²

■ 競技概要

競技	スケート・ショートトラック
種目	男子：500m・1,000m・1,500m・5,000mリレー 女子：500m・1,000m・1,500m・3,000mリレー
概要	レースは原則として4人(500m、1000m)および6人(1500m)が同時にスタートして、予選、準々決勝、準決勝と各組上位2人(または必要数)が次のラウンドに進出する勝ち抜き方法で行われる。トラックは1周111.12m(直線：28.85m、カーブの半径：8m)。レース中の追い越しはいつでもどこでも可能だが、前の選手を押す、あるいは引っ張るなどの妨害行為をすると失格になり、次のラウンドには進むことができない。フィニッシュはスリットカメラでブレードの先端を1/1000秒まで計測し、勝敗を決する。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席：12,000名 立見席：-
会場の数	1 ※フィギュアスケートと共有可能
敷地面積(m ²)	40,000m ²
建築面積(m ²)	26,000m ²
建物構造	RC造・鉄骨造
コース規定 特記事項	トラックのサイズ：1周111.12m 直線：28.85m カーブの半径：8m 【出典：ISU SPECIAL REGULATIONS & TECHNICAL RULES SPEED SKATING and SHORT TRACK SPEED SKATING・2012年度、及び公益財団法人日本スケート連盟公式ホームページ内ショートトラック部分】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工事部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約370m ²
競技マネージメント	約65m ²
競技情報	約25m ²
アスリートラウンジ	約180m ²
アスリート用ロッカールーム	約400m ²
チームベンチエリア	約10m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約150m ²
競技用具ストレージ	約70m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

FOPスタッフスタンバイエリア	約12m ²
FOP備品保管エリア	約40m ²
アスリートスタンバイエリア	約10m ²
トイレ	約5m ²
アスリートエリア	約5m ²
トイレ	約5m ²
FOPに近い場所	約5m ²

■ 冬季スポーツ宮殿「アイスバーグ」 “Iceberg” Skating Palace Figure Skating | Short Track Speed Skating (参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 12,000席
- ・敷地面積：11.42ha
- ・建物の高さ：34m
- ・冬季スポーツ宮殿「アイスバーグ」は、フィギュア・スケート及びショート・トラック競技用施設である。
- ・コンクリートの初回注入の際、建物の基礎部分に記念カプセルが埋められた。
- ・「アイスバーグ」の基礎には、2,280本の杭が打ち込まれている。
- ・基礎プレート(20,500m²)の敷設は、1カ月未満で完了した。
- ・基礎は、18,000立米以上のコンクリートと、1,943トンの鉄骨を必要とした。
- ・施設の建設には、15,000トンの金属構造材が使われている。これはエッフェル塔2つ分だ。
- ・巨大な屋根が皿状のスタジアムの30m以上上空にそびえている。屋根の周囲は波のような形をしており、大洋に浮かぶ氷山を思わせるファサードと調和している。
- ・施設の名称はインターナショナルで、ロシア語・英語・ドイツ語で共通。

■ 競技概要

競技	アイスホッケー
種目	男女：団体戦
概要	1チーム6人。1ピリオド20分で合計3ピリオド。間に2回休憩(15分)を挟む。ゴム製のパックをスティックで操りながら相手ゴールに入れ得点を競う。リンクのサイズは60m×30m。パックは硬質ゴム製で直径7.62cm。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 10,000名 立見席： -
会場の数	1
敷地面積(m ²)	48,000m ²
建築面積(m ²)	25,000m ²
建物構造	RC造/鉄骨造
コース規定 特記事項	アイスリンク：58-60m×28-30m 【出典：IIHFアイスホッケー公式国際競技規則・2010-2014年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約3,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工事部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約465m ²
競技情報	約20m ²
アスリートラウンジ	約200m ²
アスリート用ロッカールーム	約1,120m ²
ランドリールーム	約75m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約150m ²
競技用具ストレージ	約150m ²
スケート研ぐため& エキップメントリベアルーム	約100m ²
ユニフォーム及びアパレルリペア	約150m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

チームストレージエリア	約225m ²
FOP備品保管エリア	約225m ²
トイレ — アスリートエリア	約5m ²
トイレ — FOPに近い場所	約5m ²

■ 大型アイスアリーナ「ボリショイ」
“Bolshoy” Ice Dome
Ice Hockey1
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 12,000席
- ・敷地面積：13ha
- ・建物の高さ：49m
- ・ドーム型屋根の大きさ：190×140m
- ・ドーム型屋根の総面積は7千m²以上で、中心となるアイスホッケーリンクの上空は50mにそびえる。
- ・ガラスの色は、日中はアリーナが鏡のようにきらきらと輝き、夜は完全に透明になり内部のインテリアが見える色が選ばれた。
- ・屋根は、光ダイオード機器を内蔵している。
- ・屋根は、あらゆる映像を映すスクリーンとなる。映像が映ることで、この建物の外観が変わる。
- ・アリーナの屋根の面積は、約26,000m²で、アイスホッケーリンク12面分以上である。
- ・アイスアリーナの名称は、スポーツ施設という特徴を強調している。「ボリショイ」は、最も多くの観客を動員するスポーツ競技実施のための、オリンピック関連施設中最も収容力のあるものの一つになる。また、「ボリショイ」は、多くの国や民族にとってわかりやすくおなじみの言葉となっており、「ボリショイ」と言えばロシアを—ボリショイ劇場、バレエ、フィギュアスケート、ホッケーのロシアンスクール—の伝統、世界最大の国であるロシアのその他の成果を、常に連想させる。

■ 競技概要

競技	アイスホッケー
種目	男女：団体戦
概要	1チーム6人。1ピリオド20分で合計3ピリオド。間に2回休憩(15分)を挟む。ゴム製のパックをスティックで操りながら相手ゴールに入れ得点を競う。リンクのサイズは60m×30m。パックは硬質ゴム製で直径7.62cm。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 6,000名 立見席： -
会場の数	1
敷地面積(m ²)	40,000m ²
建築面積(m ²)	13,500m ²
建物構造	RC造
コース規定 特記事項	アイスリンク：58-60m×28-30m 【出典：IIHFアイスホッケー公式国際競技規則・2010-2014年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約3,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工事部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約465m ²
競技情報	約20m ²
アスリートラウンジ	約200m ²
アスリート用ロッカールーム	約1,120m ²
ランドリールーム	約75m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約150m ²
競技用具ストレージ	約100m ²
スケート研ぐため& エキップメントリペアルーム	約100m ²
ユニフォーム及びアパレルリペア	約225m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

チームストレージエリア	約225m ²
FOP備品保管エリア	約225m ²
トイレ アスリートエリア	約5m ²
トイレ FOPに近い場所	約5m ²

■ アイスアリーナ「シャイバ」(アイスホッケーのバックの意)
“Shayba” Arena
Ice Hockey2
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 7,000席
- ・敷地面積：3,1ha
- ・建物の高さ：22,8m
- ・この施設では、冬季オリンピックのアイスホッケーや冬季パラリンピックのスレッジ・ホッケー競技が行われる。
- ・最初にコンクリートを注入した際、建設作業員たちは、アリーナの基礎部分に、シンボルとなるシャイバ(アイスホッケーのバック)を埋めた。
- ・アリーナの外観は吹雪あるいは動くバックをイメージして造られた。
- ・建物の主要な金属構造物の重量は4,700トン。
- ・シャイバ(バック)はスポーツの用具であり、アイスホッケーの試合になくてはならないもの。シャイバという名称は、まさにこの施設の目的をあらわしている。また、ロシア人にとって「シャイバ(バックを)！」と叫ぶことは、国際大会で自国ホッケーチームを応援する時の普遍的でおなじみの掛け声。このように、この名称は「ロシアの」冬の競技大会という特徴を強調している。

■ 競技概要

競技	ボブスレー・ボブスレー
種目	男子：2人乗り・4人乗り 女子：2人乗り
概要	ボブスレーは「氷上のF1レース」とも呼ばれる。流線型をした鋼鉄製シャーシーのそりに乗り、ごう音を立てながら全長約1400m前後の氷の壁を疾走する。オリンピックでは、1924年に行われた第1回のシャモニー・モンブラン大会から正式競技となっている。当初は男子だけの競技であったが、2002年のソルトレークシティ大会から女子2人乗りが新種目として加わり、男子2人乗りと男子4人乗りを合わせた3種目となった。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 1,000名 立見席： 10,000名
会場の数	1 ※スケルトン/リュージュと共有可能
敷地面積(m ²)	240,000m ²
建築面積(m ²)	約23,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	①トラック長：1,200～1,650m ②フィニッシュ速度：80km/h ③助走区間の長さ：15m ④助走区間の勾配：2% 【出典：FIBTボブスレー国際競技規則・2013年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,000m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工事部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

チームそりのストレージメンテナンス エリア	約325m ²
到着エリア/管理/フィニッシュハウス	約400m ²

※FOP：競技実施エリア

アスリートラウンジ	約180m ²
アイスマスターエリア	約25m ²
コーチプラットフォーム	約40m ²
トイレ アスリートエリア及びFOPに近い エリア	約5m ²

■ リュージュ・センター「サンキ(そりの意)」
“Sanki” Sliding Centre
Bobsleigh | Luge | Skeleton
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 5,000席
- ・本コースでは、ボブスレー、スケルトン及びリュージュ競技を開催。
- ・ソチのリュージュ・ボブスレーコースは、ロシア初の国際大会対応コース。同様のコースは世界に20か所もない。
- ・コースは、クラスナヤ・ポリャナ村近くのアイブガ山脈の北斜面の直射日光が当たらない部分に造られている。
- ・コースは、現地の既存の地形を最大限生かしており、総延長1,814m、うち314mはプレーキングエリア。
- ・リュージュ・センターの最高地点は標高836m、最低地点は704m。
- ・最高速度は135km/時。
- ・世界一安全で距離の長いリュージュ・ボブスレーコースである。コースは3か所の上り坂止めと高い側壁を有している。

■ 競技概要

競技	ボブスレー・スケルトン
種目	男女：個人戦
概要	スケルトンとは、ボブスレーやリュージュと同じ氷で造られたコースを、鉄製のそりで滑り降り、そのタイムを競う競技のことである。この競技の特徴は、足を前にして乗るボブスレーやリュージュと異なり、頭を前にして、腹ばいになってそりに乗ること。1928年と1948年のサンモリッツ大会では公式競技として行われたが、その後はオリンピック競技から外れた。しかし、世界各国からの声に押されて、2002年ソルトレークシティ大会で、54年ぶりにオリンピック競技に復活することとなった。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 1,000名 立見席： 10,000名
会場の数	1 ※ボブスレー/リュージュと共有可能
敷地面積(m ²)	240,000m ²
建築面積(m ²)	約23,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	①トラック長：1,200～1,650m ②フィニッシュ速度：80km/h ③助走区間の長さ：15m ④助走区間の勾配：2% 【出典：FIBTスケルトン国際競技規則・2013年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,000m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

チームそののストレージメンテナンス エリア	約325m ²
到着エリア/管理/フィニッシュハウス	約400m ²

※FOP：競技実施エリア

アスリートラウンジ	約180m ²
アイスマスターエリア	約25m ²
コーチプラットフォーム	約40m ²
トイレ アスリートエリア及びFOPに近い エリア	約5m ²

■ リュージュ・センター「サンキ(そのの意)」
“Sanki” Sliding Centre
Bobsleigh | Luge | Skeleton
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 5,000席
- ・本コースでは、ボブスレー、スケルトン及びリュージュ競技を開催予定である。
- ・ソチのリュージュ・ボブスレーコースは、ロシア初の国際大会対応コース。同様のコースは世界に20か所もない。
- ・コースは、クラスナヤ・ポリャナ村近くのアイブガ山脈の北斜面の直射日光が当たらない部分に造られている。
- ・コースは、現地の既存の地形を最大限生かしており、総延長1,814m、うち314mはプレーキングエリアだ。
- ・リュージュ・センターの最高地点は標高836m、最低地点は704m。
- ・最高速度は135km/時。
- ・これは世界一安全で距離の長いリュージュ・ボブスレーコースである。コースは3か所の上り坂止めと高い側壁を有している。

■ 競技概要

競技	リージュ
種目	男子：1人乗り 女子：1人乗り チームリージュ：女子1人乗り・男子1人乗り・2人乗り
概要	リージュ競技はそり遊びから発展したもので、ハンドルもブレーキもない強化プラスチック製のそりに仰向けに寝て、足首で挟んだそりの先端(クーヘ)を押し込むようにして、操作しながら滑走の速さを競うものである。1964年のインスブルック大会からオリンピックの正式競技となり、競技そのものを示す用語として用いられ、国際的に「リージュ」と称される。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 1,000名 立見席： 10,000名
会場の数	1 ※ボブスレー/スケルトンと共有可能
敷地面積(m ²)	240,000m ²
建築面積(m ²)	約23,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	①トラック長：1,000m以上(男子1人)、 800m以上(女子1人・2人) ②最高速度：135km/h以下 ③勾配：250m付近で80km/hに達する 【出典：IRO国際リージュ競技規則・2012年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,000m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工事部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

計量ハウス/テイクアウトビルディング	約75m ²
制限付きコントロールエリア	約30m ²
チームそりのストレージメンテナンス エリア	約325m ²
到着エリア/管理/フィニッシュハウス	約400m ²

※FOP：競技実施エリア

アスリートラウンジ	約180m ²
アイスマスターエリア	約25m ²
コーチプラットフォーム	約40m ²
トイレ アスリートエリア及び FOPに近いエリア	約5m ²

■ リージュ・センター「サンキ(そりの意)」
“Sanki” Sliding Centre
Bobsleigh | Luge | Skeleton
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

・座席数 5,000席

・本コースでは、ボブスレー、スケルトン及びリージュ競技を開催予定である。

・ソチのリージュ・ボブスレーコースは、ロシア初の国際大会対応コース。同様のコースは世界に20か所もない。

・コースは、クラスナヤ・ポリャナ村近くのアイブガ山脈の北斜面の直射日光が当たらない部分に造られている。

・コースは、現地の既存の地形を最大限生かしており、総延長1,814m、うち314mはブレーキングエリアだ。

・リージュ・センターの最高地点は標高836m、最低地点は704m。

・最高速度は135km/時。

・これは世界一安全で距離の長いリージュ・ボブスレーコースである。コースは3か所の上り坂止めと高い側壁を有している。

■ 競技概要

競技	カーリング
種目	男女：団体戦
概要	カーリングはストーンと呼ばれる円形の石を、氷上約40m先の的(ハウス)に向かって、相手チームと交互に投げ合い得点を競う競技である。この競技の起源は、スコットランドで1511年と刻印されたストーンが発見されているため、15世紀頃スコットランドで始まったという説が有力だが、欧州大陸という説もある。また、カーリングの名前の由来は、ゆっくりと回転しながら滑る石が曲がり(カール)ながら進むことから名付けられたとされている。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 3,000名 立見席： -
会場の数	1
敷地面積(m ²)	48,000m ²
建築面積(m ²)	10,700m ²
建物構造	RC造・鉄骨造
コース規定 特記事項	リンクの長さ：44.5m リンクの幅：4.75m 【出典：WCF冬季オリンピック競技カーリング競技規則 及び会場規則・2011年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約140m ²
放送	約3,100m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約320m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約200m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約800m ²
セキュリティ	約900m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約80m ²
交通	約850m ²
現場管理・工事部門の業務エリア	約1,360m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約55m ²
競技マネージメント	約70m ²
競技情報	約15m ²
アスリートラウンジ	約125m ²
氷/雪テクニシャンエリア	約150m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約45m ²
FOP備品保管エリア	約120m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

トイレ アスリートエリア	約5m ²
トイレ FOPに近い場所	約5m ²

■ カーリング・センター「アイスキューブ」
“Ice Cube” Curling Center
Curling
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 3,000席
- ・敷地面積：2.6ha
- ・建物の高さ：19.3m
- ・カーリング・センターのデザインはシンプルだ。オリンピックやパラリンピックの特徴である民主性や親しみやすさと同時に、祝祭性が感じられる。
- ・カーリング・センター「アイスキューブ」は、オリンピック・パーク内最小のスポーツ施設。
- ・アリーナの構造物の総重量は1,148トン。

■ 競技概要

競技	バイアスロン
種目	男子：スプリント10km・15km・20km・パシュート・4x7.5km 女子：スプリント7.5km・12.5km・15km・パシュート・4x6km 混合リレー
概要	バイアスロンはクロスカントリーのスキーと、スモールボア・ライフル射撃という全く違った競技を組み合わせる競技。すなわち、スキーを履き、銃を背負って定められた距離のコースを滑走することにより、その心拍数は極限に達し、その途中で決められた回数だけ心拍数を早く低下させて射撃を行うもので、「動と静」の相反する競技性を同時に行う競技。オリンピック競技には、男子が1960年スコパレー大会から、女子は92年アルペール大会から採用された。

■ 競技会場/規模等要件

収容人数	固定席： 5,000～7,000名 立見席： 10,000～15,000名
会場の数	1
敷地面積(m ²)	850,000m ²
建築面積(m ²)	約23,000m ²
建物構造	鉄骨造
コース規定 特記事項	①競技場：選手生活エリアより30km以内 or 30分以内 ②標高差：選手生活エリアの±300m以下 【出典：IBU Rules・2012年度】

■ 一般スペース設備空間要件

アクレディテーション	約160m ²
放送	約5,700m ²
ケータリング	約1,000m ²
セレモニー	約130m ²
清掃と廃棄物	約420m ²
ドーピング管理	約6m ²
イベントサービス	約200m ²
金融関連	約70m ²
言語サービス	約30m ²
物流	約1,400m ²
医療サービス	約300m ²
商品販売	約50m ²
オリンピックファミリーサービス	約560m ²
プレスオペレーション	約1,500m ²
セキュリティ	約1,200m ²
競技プレゼンテーション	約80m ²
テクノロジーオペレーション	約120m ²
情報技術	約60m ²
通信、視聴覚	約70m ²
時間計測、スコアリング、 結果オペレーション	約100m ²
テクノロジー関連一般保管	約110m ²
テクノロジー系一般インフラ	約25m ²
チケット取扱い	約100m ²
交通	約920m ²
現場管理・工事部門の業務エリア	約1,580m ²

■ 競技における設備空間要件

国際競技連盟	約60m ²
競技マネージメント	約65m ²
競技スタッフ用部屋及び 無線テストエリア	約65m ²
競技情報	約25m ²
アスリートラウンジ	約180m ²
コースチーフオフィス	約20m ²
射撃競技チーフ用オフィス	約20m ²
競技チーフ用ストレージ	約20m ²
最終ワックス掛け用キャノピー	約15m ²

※IF：国際競技連盟
※FOP：競技実施エリア

スキーマーキングエリア	約25m ²
IF&スポーツミーティングルーム	約150m ²
銃弾とライフルの保管所	約50m ²
FOP備品保管エリア	約65m ²

■ クロスカントリースキー及びバイアスロン用複合施設「ラウラ」
“Laula” Cross-country Ski & Biathlon Centre
Biathlon | Cross Country Skiing
(参考：SOCHI2014)

施設概要：

- ・座席数 7,500席(クロスカントリースキーセンター)、7,500席(バイアスロンセンター)
- ・当施設は、クラスナヤ・ポリャナ村北東6.5～10kmのプセハコ山脈の尾根及び斜面にある。
- ・施設は、2つの独立したスタジアムからなり、各スタジアムにはスタート・フィニッシュゾーン、総延長15km以上の2つの独立したクロスカントリースキーとバイアスロン用コース、射撃場及びウォーミングアップゾーンがある。
- ・スキーコースのスケータリングサークルは、スタジアムから80m下方にあり、コース最終部分1,700mのうち1,200mは上り坂で高低差は85m。

■選手村規模等要件

条件	収容人数	4,500人
	住居1人当たり 居住面積	約20㎡ (共用面積割合含む)
	容積率	200%
	建ぺい率	60%
延べ床面積	住居面積	90,000㎡ (3階建て 高さ10m)
	レストラン等付帯設備に 必要な面積	18,000㎡
敷地面積	住居・レストラン、トレーニング施設等に必要 用地面積	約70,000㎡
	駐車場、バス停、道路等	約35,000㎡

■選手村・山岳選手村・第二山岳選手村 (参考：SOCHI2014)

●選手村

・施設概要

主要オリンピック村の総面積は76ha。オリンピック村とスポーツ施設は、交通機関で結ばれている。しかし、オリンピック村から最も遠い黒海沿岸施設群の施設まででも徒歩10分以内。2,000名のアスリートと選手団が宿泊。

●第二山岳選手村

・施設概要

第二山岳選手村は、クロスカントリースキー及びバイアスロン用複合施設のすぐ近く(500~800m)、競技会場と同じ標高にあり、特に耐寒性(持久力)が必要とされる競技(バイアスロンやスキークロス)に参加する選手が宿泊する。1,100名のアスリートと選手団が宿泊。

●山岳選手村

・施設概要

山岳選手村は、アルペンスキー・センター、フリースタイル・センター及びスノーボード・パークのすぐ近くにある。選手は、アルプス様式のホテルやアパートメント型ホテル、コテージの快適な部屋に宿泊する。3,000名のアスリートと選手団が宿泊。

■開会式・閉会式会場

施設概要

開会式および閉会式の会場は、アスリートや審判への配慮に基づいた選手村からの距離、移動時間および移動手段が重要な要素となる。設計にあたり、設計チームはアスリートの入場行進や聖火、創作コンセプトなど、開会式や閉会式のニーズを考慮することが推奨される。

開・閉会式会場についての会場規模等の規定がないため、以下に過去大会の実績を記す。

(各大会の実施報告書・レポートより)

● 1998長野大会 (参考 : OLYMPIC WINTER GAME OFFICIAL REPORT)

- ・会場 : 南長野運動公園多目的競技場
- ・収容人数 : 50,000名

● 2010バンクーバー大会 (参考 : vancouver 2010Sustainability report)

- ・会場 : BCプレイス
- ・収容人数 : 54,550名

● 2014ソチ大会 (参考 : SOCHI2014)

- ・会場 : フィシュト・オリンピック・スタジアム
- ・収容人数 : 40,000名

■メディア村

開催都市に、すべての取材申請許可を得ているメディアが宿泊するのに十分なホテルがない場合、組織委員会はメディア村(各競技会場の配置によっては1か所以上に)を提供しなければならない。可能な限り、交通手段のニーズを考慮して、メインメディアセンターやオリンピックスタジアム、主な競技会場に近く、1か所に集まっている既存の宿泊施設(三ツ星、四ツ星)を優先する。規模等の規定なし。

■オリンピック・メディア村 (参考 : SOCHI2014)

・施設概要

オリンピック・メディア村は、スポーツ観光複合施設「ゴルナヤ・カルセリ(山のメリーゴーランド)」の一部である。

当村は標高540mと960mに建設される。

ホテル、アパートメント型ホテル及び山岳補助メディア・センターを含む。

※ソチでは山間部ホテル(Mountain Cluster Hotels) 4ホテル 1,696部屋、沿岸部ホテル(Coastal Cluster Hotels) 5ホテル 670部屋が用意された。

■メインメディアセンター(MMC)

冬季オリンピックでは、メインプレスセンター(M P C)と国際放送センター(I B C)が一体となったメインメディアセンター(M M C)を設け、メディア交通ハブを含む諸サービスを共用する。

MMC(MPC + IBC)	
収容人数	10,000人
一人あたりの専有面積	6㎡
利用可能面積 (Usable Space)	60,000㎡
輸送や発着場所、セキュリティエリア等の施設面積 ※同施設内またはそれに隣接	1,000㎡
一体化した I B C / M P C メディアトランスポートモール	最低3,000㎡以上
レンタブル比	60%
容積率	300%
建ぺい率	70%
建物の延べ床面積	100,000㎡
用地面積	約40,000㎡
駐車場	
その他特記事項 オープンプラン(間仕切りのない)のコンベンション施設が望ましく、階数はできるだけ少なくし、5階以上であってはならない。	

■メインメディアセンター(MMC) (参考 : SOCHI2014)

メインメディアセンターは19.9haの敷地にあり、独立した交通路と自動車1千台以上を収容できる駐車場、アンテナ用フィールド及び技術ゾーンを備えている。施設には、50,000㎡の国際放送センター及びメインプレスセンターが含まれる。ピーク時には1万～1万2千人の放送局員や報道関係者、カメラマンを収容可能。



■ マウンテンメディアセンター

冬季オリンピックの場合、山間部にマウンテンメディアセンターが必要になる。

メインプレスセンター(M P C)のアメニティや設備、サービスを縮小したメディアセンターであるが、面積は少なくとも3,000㎡とし、これに交通ハブとトラックのアクセスおよび搬入ドックと貯蔵場所等が隣接する。

■ ゲンキプレスセンター(G P C)
(参考 : SOCHI2014)

ゲンキプレスセンター(GPC)とマウンテンブロードキャストセンター(MBC)はエスト=サドク、ポリャーナ地区に位置し、マウンテンクラスタ競技会場から3~16kmの間にある。

